パネルディスカッション

【要旨】

＜奄美の魅力、特徴＞

○　奄美の魅力を言葉で表現すると「風景（自然）」「情景（文化や人との交わり）」「背景（歴史）」の３つ。特に人とのつながり、人を絡めた文化が奄美ならではの特徴であり、それを活かして「伝泊（伝統的なところに住まうように暮らして旅を楽しんでもらおうという企画）」に取り組んでいる。

○　黒糖焼酎、島の住民の人柄、料理、ゆったりとした時間の流れ（島時間）。

＜観光を軸とした地域活性化に向けた課題・方策等＞

（考え方）

○　キーワードは「人材育成」と「民間主導」。人のつながりによって観光は成り立っている。また、観光客に長期的にリピーターとなってもらうためには、責任の取れる民間人を中心とした取組を行政が支援する形が最良と考える。

○　観光はテコであり目的ではない。観光をテコにどのように儲けるか、産業を興すかを考える必要がある。

○　集落の行事や文化といった地域コミュニティが観光や産業のベースであり、コミュニティがなくなると観光や産業も廃れてしまうので、観光が軸ではなく、地域コミュニティを作り維持するために観光を活用するという視点で取り組んでいる。

（専門人材の育成）

○　無料ガイドはやめるべき。地域ガイドは、観光客に面白く、興味深く説明するために時間や労力をかけて一生懸命勉強するなどしており、無料ではなく相応の対価を払う仕組みを作り、生活が成り立つ職業として整備が必要。

○　外国人観光客に鹿児島の本質的な魅力を味わっていただきたいが、今の鹿児島にはきちんと翻訳して説明・解説ができる人材が不足しており、ツールもない。産業として観光に取り組むのであれば、生活が成り立つ職業としてプロフェッショナルを育てないといけない。

（売り込みの工夫）

○　龍郷町の秋名集落に伝わる「ショチョガマ」という祭りでは、背景を含めて観光客に紹介する活動に取り組んでおり、リピーターが増えている。また、大和村の NPO 法人 TAMASU が手掛ける、島のおじいちゃんと夕陽を見ながらビールを飲むというツアーが好評。人の心をくすぐるような取組をしないと、一般的な観光地づくりになりかねないと危惧している。

○　焼酎蔵を見学し製造工程を理解してもらって、記念に焼酎を買って帰るという仕組み作りのため、見学者用の対応施設やトイレ、駐車場を整備した。「いろいろと追い風が吹いている」と枕詞のように言われるが、追い風をキャッチするための具体的な行動が大事。

○　奄美の黒糖焼酎の蔵巡りを企画すれば、焼酎もたくさん売れると思う。旅人が喜んでお金を払う仕組みをたくさん仕掛ければ、経済の発展にもつながるのではないか。
○　同じ鹿児島県であっても、島と本土とはコンテンツが根本的に違うと思う。県の支援を受けつつ、「奄美」という名前でタヒチやモルディブといった世界の観光地と戦っていくことも必要ではないか。
○　大島紬などの伝統工芸品を外国人に紹介する際には、ただ英訳するだけではなく、背景にある歴史的・文化的な価値をストーリー立てて伝えるなど、付加価値をつけることが重要。
　また、伝統工芸品を販売する際は、商品の見せ方や紹介の仕方に加え、商品の良さをお店に入る前に説明できればベスト。
○　外国人観光客をひとまとめにせず、観光客の国籍毎にどのような商品が売れているのかを分析し、好みに応じた売り方を工夫することも必要。

（連携）
○　連携に当たっては、それぞれの組織の利害が絡むことが最も難しい課題であり、気持ちだけではなく人やお金を出し合って取り組むことが必要。
○　地元自治体や近隣の企業とで包括連携協定を締結した。今後、成果とスピード感にこだわりつつ PDCA サイクルを回していく。

＜生産性の向上に向けた課題・方策＞
（資金面）
○　うまくお金を回している企業は、金融機関に事業計画を見てもらうなどよく相談している。金融機関はコンサルティング業務を強化しており、金融機関を使って生産性を上げる方法もある。
○　活性化に取り組むためには当然投資が必要なので、ファンドの活用も含めて民間企業は資金調達の手段をもっと勉強していく必要がある。

（生産量）
○　黒糖焼酎以外の島の特産品の注文を受けた際、量が確保できないことがネックとなり商談がなかなか成立しなかった。
○　島では量を作るという経験がなく、生産計画自体を立てたことがない企業も少なくないので、その点を補完・アドバイスできるところがあるとよい。

（物流）
○　島では物流が大きな課題。例えば企業間で連携してストックヤードを整備するなどして物流を改善できれば、来島した観光客にお金を消費してもらい一気に外貨を稼ぐこともできる。

＜会場との意見交換＞

Ｑ．ディスカッションの中で「暮らせるような旅」という発言があったが、具体的なイメージを教えてほしい。

→　Ａ．旅人自身が、旅行先でその土地に暮らす人間になった疑似体験ができるような感じ。地元の人となるべく接し、公共交通機関で移動するなど、暮らすように滞在するのが楽しい。

Ｑ．キラーコンテンツを作る上での考え方などを助言頂きたい。

→　Ａ．・伝統的な踊りや闘牛など奄美独特の文化に地元の方々との接点を組み合わせると良い。

・その他、地域の方々や文化に接することで生じる付加価値、何もない中での印象深い１品、体験型のコンテンツ、など。